7月園だより

２０２０年度 年主題〈こころが満たされる〉

0･1･2歳児７月主題　「きもちいいね」

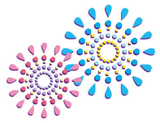
月のねがい

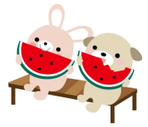
◎保育者祈りやさんびかに親しむ(0)　◎食事、睡眠を十分にとり、健康に過ごす(0)　◎温水遊びや沐浴を通して、水の心地よさを感じ楽しむ(0)　◎保育者と一緒にさんびかを歌う(1.2)
◎土や砂、水などにふれて感触を知り楽しむ(1.2)◎保育者の関わりによって自分の思いを知る(1.2)

3･4･5歳児７月主題　「遊びこむ」

月のねがい

◎保育者や友だちと一緒に祈り、賛美することを喜ぶ(3)　◎好きな遊びをこころゆくまで楽しむ(3)　◎着替える、休息する、身体を清潔にすることの心地よさを感じる(3)　◎一人ひとりの中にも神さまに祈りたい気持ちが芽生える(4.5)　◎好きな遊びを繰り返し楽しみ、工夫したり探求したりする楽しさを味わう(4.5)　◎主体的に生活に関わろうとする(4.5)





今月の聖句

「わたしのくちびるは　あなたを讃美します。」

詩篇63：3

コロナ禍での自宅待機要請が解け、当たり前にやっていた生活はまだまだ難しいものの、少しずつ元の日常に戻りつつあります。

そういう中、子どもたちが園でのびのびと遊びながら成長している姿を想像します。園では楽しいことも、悔しいことも、新しい体験も、お友達や先生たちとの絆を深める繋がりも、毎日豊かに経験していることでしょう。嬉しかったこと、楽しかったこと、場合によっては悔しかったことも、子どもたちは沢山のことを経験し、その経験を誰かに話したがります。一番話したい相手は、大好きなご両親であることでしょう。話しながら目を輝かせている子どもたちの表情が目に浮かびます。

聖書の中には詩篇という書物があり、150篇からなっています。詩篇は神を信じる信仰者の祈りの言葉だと言われています。ユダヤの民は、この詩篇に節をつけて歌としました。彼らが生活の中で受けた喜びを、神さまに賛美として献げました。それは大好きな両親に子どもが自分の経験を一生懸命話す姿と重なります。そのような親や大人に見守られて育つ子どもたちは幸いです。同じように、自分のことを何でも打ち明けることの出来る友人や、先輩、家族がおられる人は幸いです。何よりも、神さまに対してそのように接することの出来る人は幸いなのです。

協力牧師　池田基宣

７月の行事予定

２日（木）	海遊び4･5歳児・弁当日
９日（木）	海遊び2･3歳児
８日（水）	七夕事業所訪問
４日（土）	弁当日
１０日（金）	市営プール遊び（年中長児）
１６日（木）	７月誕生会
１７日（金）	１学期終園式(1号:午前保育)
18・19日	お泊まり保育（年長児）

８月の行事予定

３日（月）	夏期保育(そうめん流し･午前保育)
13～15日	お盆休み（2.3号弁当）
２１日（金）	夏期保育(8月誕生会・午前保育)
２９日（土）	夏期おやぢ保育

ひたすらあそびこむ

園長

自粛また自粛の生活を強いられた頃からすると、私たちの周りも、通常の生活に戻ってきているようです。種子島全体でも現在まで感染者は無く、まことにありがたいことです。本来なら今頃は、父母の会の「夏まつり」に向けて最終的な段階に入っていたところです。今回はとても残念でしたが、何か思い出に残るものを九月に実施できればと願っています。

入園・進級から三ヶ月が経ち、子どもたちの行動や活動も活発になってきました。友だちや保育者との関係性も少しずつ広がり、深さも増してきているようです。当初、砂場の砂から始まった遊びが水や泥や葉っぱなどを加え、様々な感触を楽しむようになります。年長の子どもたちになると、土地の起伏を利用したり、工夫次第で遊びが展開していくことに気づき始めています。いよいよ彼らの宇宙が面白いことになってくるわけです。

心理学者で有名なピアジェは、この時期の子どもの活動についてこう言っています。「未知の分野の研究をしている科学者がしている実験的な行為、すなわち、真理の探究をしている科学者の営みと同じである。」と。彼らは同じ実験を何度も繰り返し、同じ結論を何度も得ることで、やっと納得できるのです。年少児あたりからの子どもたちの心理は、そのようなものかも知れません。ここから飛び降りたらどうなるんだろう？。デコボコ山上まで上れるかな？。ガジュマルの根っこにぶら下がってもだいじょうぶかな？。あれやこれやと頭の中で思いを巡らし、何度も何度も繰り返し答を求め続けます。この時期にこのような挑戦や悪戯をどれくらい十分にさせてあげられるかが肝要です。独創的な想像力や自発性を育てられる鍵は、ひたすら繰り返すことにあるのではないでしょうか。そして、自分自身を知るためにも友だちとの関わりが必要です。遊びの中で、相手と自分の考え方や感じ方が違うことがあることに気付きます。ある時は自分の意見を押し通し、ある時には相手の立場や主張を認めて優先させたりすることもできるようになります。言わば状況に応じて、自分の取るべき態度や役割を自覚していくということです。友だちへの共感や理解が深まるほど、自己をしっかりと見つめられる子どもに育っていくのだと思います。

海や川、山や野原で走り回り、カニや小魚やカブトムシを追いかける。時にはロケットが飛んでいく姿を見上げる。人生の基盤となるこの時期を、家族や友だちと種子島で過ごす子どもたち･･･なんて素晴らしい時間を与えられたことか。どうぞ宝物のような瞬間を皆さんで楽しんでください。子どもたちのために今できることを、皆さんが共に整えてくださることに心から感謝いたします。この夏も子どもたちと共に暑さを乗り切っていきましょう。

久々現る･･海賊minami

フリー参観ではたくさんの方々が参加くださり、子どもたちの園での様子を観ていただきました。私たち職員は緊張の連続でしたが、自らを振り返るとても貴重な１週間となりました。ありがとうございました。

さて、今年はたんぽぽ組の誕生表が海賊をモチーフとしたものになっています。それを見て、ふと７、８年前に「海賊」をテーマに１年間、子どもたちと楽しんだことを思い出しました。そこで、その時の架空の人物「海賊minami（みなみ）」を再登場させてみようと保育に取り入れてみました。

海賊からの手紙に興奮する子どもたちでしたが、その後、なにか普段と違うことが起きると「minamiのしわざ？」とささやく子どもたちです。今も、海賊minamiとのやりとりが続いており、宝の地図が届いてみんなで宝を探したり、文字カードを並べ替えてminamiからの言葉の解読をしたりと、その度に子どもたちの目はさらに大きくなって、見ているこちらがウキウキします。

年長児さんは、お泊り保育にも海賊からの招待状をもらいました。お父さん、お母さんと離れるのは勇気がいることだけど、その招待状には「強い心が欲しいか？」と、海賊からの言葉があります。もちろん、みんな「お泊りする！」とのこと。今年も、いろいろユニークな架空の物語の世界に子どもたちを巻き込んで、楽しい時間を共有できたらと思います。　森山

「乳幼児の口の発達について」講演会より

☆生きるための口の役割は？
- ・呼吸する
- ・食べる
- ・話す
- ・表情を作る

→ 呼吸する以外は生まれてからの学習です

乳児の食べる機能の発達段階
①３.４か月頃・・・哺乳反射期(唇はほとんど動かない)
②５.６か月頃・・・補食機能獲得期(唇をとじて飲む)
③７.８か月頃・・・押しつぶし機能獲得期
④9~11か月頃・・・すりつぶし機能獲得期
⑤12~18か月頃・・・手づかみ食べ獲得期
⑥18か月~２歳代・・食具食べ獲得期
⑦３～５歳・・・食具食べ完了期
※食べる機能の発達段階が十分に獲得できないと・・・
- 口呼吸
- 吸い食べ
- 丸飲み
- 奥歯で咬まない
- 不明瞭な発音

→ などの症状が出てくる

口腔機能の問題
よだれが多い、かむ力が弱い、口にたくさん頬張る
授乳が長かった、指しゃぶり、唇を吸う、舐める、
舌を吸う、舌を噛む・・・

口の成長を促すための食べ方
- ・いろんな硬さの物を噛んで食べる
- ・前歯でかじり取るような食べ方を経験させる(大きく切ったスイカ等)
- ・熱いスープをさます
- ・ソフトクリームを舐める
- ・プリッツや卵ボーロなどを使ってエクササイズする

・　あそび
- ・ラッパを吹く
- ・ふきもどしのおもちゃ
- ・ふうふうする
- ・口に含んだ水をピューっと出す
- ・あっかんべー
- ・唇つまみ
- ・顔じゃんけん
- ・にらめっこ
- ・鍵盤ハーモニカくわえ方は歯で噛まない

食事の仕方、口の使い方は、早い段階（１才過ぎ）から見えてきます。不具合をそのままにしていると３～５才で、食べ方、発音に影響が出てきます。早めの気づき、支援が有効です。

毎日の生活の中での少しの改善で、口の動きだけでなく、姿勢や集中力まで変わってきます。それだけ大事な口の動きを周りの大人がよく観察していきたいものです。

歯科衛生士　青柳睦子氏より